

## 「三重県ひきこもり支援推進計画」に基づく取組の進捗状況について

「三重県ひきこもり支援推進計画」では、「3年後の目標（めざす姿）」をふまえ、計画全体を包括する数値目標として「計画全体の目標」を設定するとともに、参考指標として「モニタリング指標」を設定し、計画的な確な進行管理に努めることとしています。

本計画に基づく6つの取組方向ごとに、令和4年度の実績（見込）および令和5年度の実績について、以下のとおり整理しました。

### 【計画全体の目標】

目標項目	目標値 (R6)	現状値 (R3)	実績（見込） (R4)
「ひきこもりに関する理解が進んだ」と感じる県民の割合（※1）	70%	—	87%
「ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が進んでいる」と考える相談支援機関の割合（※2）	70%	—	集計中

※1 ひきこもり支援フォーラムに参加した方を対象にしたアンケート調査において、ひきこもりに関する理解が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合。

※2 ひきこもりに関する支援機関を対象にしたアンケート調査において、ひきこもり当事者やその家族に寄り添った支援体制の整備が「進んだ」「やや進んだ」と回答した割合。

### 【取組方向1】情報発信・普及啓発

#### （1）ひきこもりに関する正しい理解の促進

##### ○「ひきこもり支援フォーラム」の開催（子ども・福祉部地域福祉課）

（令和4年度の進捗状況）

「三重県ひきこもり支援推進計画」の趣旨等を周知するとともに、ひきこもりに関する正しい理解を促進するため、県民の皆さんを対象にした「ひきこもり支援フォーラム」を2回開催しました。

◇第1回（4月16日）（三重県総合文化センター）

・参加者：382名。ひきこもり支援を考える三重県議会議員有志の会との共催。

・講演：（テーマ）8050問題～ひきこもり支援の豊中社協の現場から～

（講師）豊中市社会福祉協議会 勝部麗子氏

・シンポジウム：（テーマ）ひきこもり支援推進の課題は何か？

（パネリスト）いなべ市ひきこもり支援センター瑠璃庵センター長 安藤哲也氏

名張市地域包括支援センター長 中野雅夫氏

「つうの会」不登校・ひきこもり親の会世話人 橋本 里美氏

◇第2回（8月27日）（クラギ文化ホール（松阪市民文化会館））

・参加者：420名。三重県議会議員有志の会、松阪市、同市教育委員会との共催。

・講演：（テーマ）ひきこもりの理解と望ましい支援のあり方について

～ひきこもりを長期化させないために～

（講師）筑波大学医学医療系社会精神保健学部教授 齋藤環氏

・シンポジウム：（テーマ）子ども・若者のひきこもり支援について

（パネリスト）ひきこもりピアサポーター 佐藤潤美氏

松阪市健康福祉部健康福祉総務課 宇野希恵氏

県教育委員会スクールソーシャルワーカー 野村真理子氏

（令和5年度の取組）

今後とも、広く県民の皆さんを対象にしたフォーラムを開催するとともに、民間事業者（経営者）や医療機関従事者等を対象にしたセミナーを開催します。

## ○ ひきこもり講演会の実施（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

ひきこもり当事者・家族・支援者等を対象としたひきこもり講演会を実施しました。

・令和5年1月30日（月）三重県津庁舎大会議室

（講師）元ひきこもり経験者

「ひきこもっていた私が見ていたものとひきこもり後に見えたもの」

（令和5年度の取組）

今後とも、当事者・家族・支援者等を対象として、精神保健医療の知見に基づいた、ひきこもりの深い理解を促進するための講演会を実施します。

## （2）支援機関からの情報発信（情報を届けるアウトリーチ）

### ○ 「ひきこもり支援ハンドブック」の作成（子ども・福祉部地域福祉課）

（令和4年度の進捗状況）

県民の皆さんがひきこもりについて正しく理解し、自分事として考えていただくきっかけとなるよう、ひきこもりに関する基本的な考え方や支援に役立つ情報（相談窓口、当事者や家族の経験談等）をまとめた「ひきこもり支援ハンドブック」を作成しました。

作成にあたっては、ひきこもり経験者、家族会、市町等の実務担当者等で構成する「ひきこもり支援ハンドブック企画検討会」を3回開催し、コンセプトや内容を検討するとともに、当事者やその家族に取材・調査等を行い、体験談を情報収集しました。

令和5年1月下旬から県内相談支援機関において配布するとともに、3月上旬から、商業施設やコンビニエンスストアでの配架を行う予定です。

（令和5年度の取組）

あらゆる機会を通じて、ハンドブックを活用した啓発活動を行っていきます。

## ○ ひきこもり当事者等向けSNSを活用したきめ細かな情報発信

(子ども・福祉部地域福祉課)

(令和4年度の進捗状況)

ひきこもり当事者やその家族をはじめ、県民の皆さんが必要な情報を得られるよう、SNS(LINE)を活用した「みえひきこもり安心サポートライン」を11月末に開始し、ひきこもりに関するコラム、相談支援機関の取組やイベント情報等を定期的に配信しています。

・登録者数：238名(令和5年2月24日現在)

心の葛藤や孤独・孤立、生きづらさなど「ひきこもり」に関連する用語を検索することで相談窓口の情報に誘導できるよう、12月中旬からインターネット上の「検索連動型広告」に取り組んでいます。

(令和5年度の取組)

今後とも、「みえひきこもり安心サポートライン」や「検索連動型広告」に継続的に取り組むとともに、当事者やその家族をはじめ、誰もが必要な情報を利用しやすくなるよう、三重県ホームページ上にひきこもり支援に関するポータルサイトを構築します。

## ○ 就職氷河期世代向けSNS等を活用したきめ細かな情報発信(雇用経済部雇用対策課)

(令和4年度の進捗状況)

ひきこもり当事者を含む就職氷河期世代を対象にした各種支援策の利用を促進するため、SNSを活用し、就職氷河期世代支援策に関するきめ細かな情報発信を行い、支援対象者やその家族に対する情報のアウトリーチを図っています。

・Twitter、Facebook および note(支援機関等の利用促進を目的としたPR漫画、エッセイ、特集記事等)を利用。

・SNSアカウントにおける投稿件数：184件(令和5年1月末現在)

(令和5年度の取組)

今後とも、就職氷河期世代支援策について、SNSを活用したきめ細かな情報発信を行います。

## ○ リーフレット「三重県ひきこもり地域支援センターのご案内」の作成

(三重県ひきこもり地域支援センター)

(令和4年度の進捗状況)

リーフレット「三重県ひきこもり地域支援センターのご案内」を作成しています。

(令和5年度の取組)

リーフレットを関係機関に配布し、三重県ひきこもり地域支援センターの事業内容を周知します。

【取組方向1】 モニタリング指標	現状値 (R3)	実績 (見込) (R4)
ひきこもり支援に関する講演会等への参加者数	—	382人 (4月) 420人 (8月)
SNSアカウントにおける投稿件数	—	184件 (R5.1月末現在)

## 【取組方向2】 対象者の状況把握・早期対応

### (1) 対象者への早期対応（潜在的な当事者へのアプローチも含む）

#### ○ 圏域単位の相談支援体制の強化（子ども・福祉部地域福祉課）

（令和4年度の進捗状況）

市町における相談支援体制の充実に向けて、3つの圏域（北勢、松阪多気・南勢志摩、東紀州）ごとに支援機関相互のノウハウの共有や困難事案に関する事例検討を行う会議として、市町、社会福祉協議会、地域包括支援センター等職員で構成する「ひきこもり支援連携調整会議」（以下「圏域別連携調整会議」という。）を開催しています。

#### ◇第1回

- ・北勢圏域：6月1日（参加者45名）・松阪多気・南勢志摩圏域：5月23日（48名）
- ・東紀州圏域：5月31日（21名）
- ・（前半）講演：（テーマ）基礎自治体におけるひきこもり支援策について  
～岡山県総社市における取組事例から～  
（講師）ノートルダム清心女子大学人間生活学部 中井俊雄准教授
- ・（後半）参加者間での情報交換会

#### ◇第2回

- ・北勢圏域：10月21日（参加者32名）松阪多気・南勢志摩圏域：10月5日（43名）
- ・東紀州圏域：10月6日（17名）
- ・（前半）講演：（テーマ）基礎自治体におけるひきこもり支援の取組について  
～豊中市社協における取組事例から～  
（講師）：豊中市社会福祉協議会 勝部麗子事務局長
- ・（後半）事例検討会：県生活相談支援センター 田中智志アウトリーチ支援員

#### ◇第3回（予定）

- ・北勢圏域：令和5年3月7日 ・松阪多気・南勢志摩圏域：3月8日
- ・東紀州圏域：3月10日

（令和5年度の取組）

今後とも、圏域別連携調整会議を定期的で開催し、県内全域におけるネットワーク機能の強化を進めます。また、市町における相談支援体制づくりを加速するため、支援体制を新たに整備する市町に対して、立ち上げ支援のための補助金を創設します。

## ○ 義務教育卒業後における途切れのない支援（教育委員会事務局生徒指導課）

（令和4年度の進捗状況）

県内の教育支援センターにスクールカウンセラー（以下、SCという。）とスクールソーシャルワーカー（以下、SSWという。）を配置し、スクールソーシャルワーカーが、各市町教育委員会や教育支援センター、福祉等の関係機関と連携し、社会との関わりが希薄な状態にある生徒の情報共有や今後の支援について検討を行うなど、生徒の実情に応じた支援に取り組んでいます。

（令和5年度の取組）

今後とも、教育支援センターに配置したSCとSSWが、通所する児童生徒とその保護者のみならず、通所できない児童生徒と保護者の相談にも幅広く対応するとともに、専門機関等の支援が必要な場合には、訪問型支援を実施します。

## ○ 地域包括支援センター等への働きかけ

（医療保健部長寿介護課、子ども・福祉部地域福祉課）

（令和4年度の進捗状況）

地域包括ケアの中核となる地域包括支援センター等が、高齢者支援を行う際に遭遇する潜在的な当事者へのアプローチとして、生活上困難な状態に陥る前の早い段階で把握し、適切な支援窓口につなげられるよう、地域包括支援センター等への働きかけを進めています。具体的には、地域包括支援センター職員等を対象にした課題別研修として、「他事業との連携について（ひきこもり）」をテーマに、他事業・関係機関との連携、支援手法等の必要な知識を修得するための研修会を10月25日に開催しました。

（令和5年度の取組）

今後とも、地域包括支援センター職員等を対象にした研修会を開催し、ひきこもり当事者を把握した際に、適切な支援機関につなげていただけるよう、地域包括支援センター等への働きかけを進めます。

## （2）適切なアセスメントの推進

### ○ 「ひきこもり相談支援マニュアル」の改訂（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

相談支援者向けの「ひきこもり相談支援マニュアル」（平成27年3月）について、策定以降の経験・実践、新たな課題等をふまえ、9月に第2版として改定しました。また、初心者が相談の手がかりとするために「三重県版ひきこもり適応行動チェックリスト」も作成し、本マニュアルに加えしました。多くの相談支援者が適切な支援方法について学ぶことで、相談支援者の資質向上をめざすため、初任者を対象に、本マニュアルを使用した「ひきこもり支援者スキルアップ研修会」を2回開催しました。

・9月2日（参加者：32名）、12月22日（15名）

(令和5年度の取組)

今後とも、本マニュアルの活用について、研修会、事例検討会、技術支援等を通じて相談支援者に働きかけていきます。

## ○「アウトリーチマニュアル」の作成（三重県ひきこもり地域支援センター）

(令和4年度の進捗状況)

三重県ひきこもり多職種連携チームの実践をもとに、医療・保健・福祉等のアウトリーチ従事者向けに「アウトリーチマニュアル アウトリーチを行う人のために」を作成し、令和5年2月10日に開催した「医療と福祉の連携研修」において紹介するとともに、県ホームページ上に公開しました。

(令和5年度の取組)

今後とも、本マニュアルの活用について、研修会等の機会をとらえて周知し、活用を促します。

## (3) 教育相談の実施

### ○教育相談の実施（教育委員会事務局研修企画・支援課）

(令和4年度の進捗状況)

子どもたちの心の問題の解決に向け、幼児から高校生までの子ども、保護者、教職員を対象に、臨床心理相談専門員（臨床心理士）を中心に専門的な教育相談を実施しています。

・教育相談件数：7,290件（令和5年1月末現在）

(令和5年度の取組)

今後とも、子どもたちの心の問題の解決に向け、幼児から高校生までの子ども、保護者、教職員を対象に、臨床心理相談専門員（臨床心理士）を中心に専門的な教育相談を実施します。

【取組方向2】 モニタリング指標	現状値 (R3)	実績 (見込) (R4)
市町における相談窓口の明確化・周知及び市町プラットフォームの設置・運営数	相談窓口 21 市町 市町プラットフォーム 19 市町	相談窓口 25 市町 市町プラットフォーム 22 市町
相談支援機関における新規相談件数	—	集計中
不登校児童生徒が、学校内外の機関等での相談・指導等を受けた割合	小学生 72.9% 中学生 63.2% 高校生 58.0% (2年度)	小学生 66.7% 中学生 62.2% 高校生 50.0% (3年度)

## 【取組方向3】 家族支援

### (1) 家族に寄り添った相談支援

#### ○ 家族への専門相談、家族教室、家族のつどいの開催

(三重県ひきこもり地域支援センター)

(令和4年度の進捗状況)

##### ① 家族への専門相談

ひきこもり相談において、適切なアセスメントを実施し、特に精神保健の観点からの支援を行っています。また、多職種連携チームによる支援も開始しました。

- ・ 電話相談支援 専門相談：毎週水曜 13 時～16 時、随時対応
- ・ 対面型相談 来所相談（予約制）、精神科医師による面接相談（予約制）  
多職種連携チームによる支援
- ・ 専門相談件数（延べ）：281 件（電話・来所・訪問）（令和5年1月末現在）

##### ② ひきこもり支援ネットワーク会議

県内4地域（北勢、中勢伊賀、南勢志摩、東紀州）において、家族支援をテーマとしたひきこもり支援ネットワーク会議を開催し、家族支援について、各機関からの報告と意見交換を行いました。

- ・ 北勢：7月29日（参加者12名）・南勢志摩：7月7日（11名）
- ・ 東紀州：7月12日（7名） ・中勢伊賀：9月30日（17名）

##### ③ ひきこもり家族教室

県内4圏域において、ひきこもり家族教室を開催しました。12月13日には、フィナンシャルプランナーであるオーキッド代表 稲垣裕子氏を講師にお迎えしました。

- ・ 東紀州：10月7日（参加者3名） ・南勢志摩：10月13日（6名）
- ・ 北勢：10月20日（12名）・中勢伊賀：11月15日（19名）12月13日（8名）

##### ④ 家族のつどい

家族同士の交流を中心にした「家族のつどい」を5月19日に開催しました。

- ・ 参加者8名

##### ⑤ 虹の会

平成26年1月から、ひきこもり当事者のご家族が集まる場として、原則毎月第3金曜日に開催しています。

(令和5年度の取組)

今後とも、ひきこもり当事者や家族への精神保健の専門性に基づいた適切な専門相談や家族支援を継続していきます。

【取組方向3】 モニタリング指標	現状値 (R3)	実績 (見込) (R4)
三重県ひきこもり地域支援センターにおける専門相談件数 (延べ)	275 件 (2 年度)	281 件
家族教室への参加者数 (延べ)	42 人 (2 年度)	93 人

## 【取組方向4】当事者支援

### (1) 当事者に寄り添った相談支援

#### ○ 当事者への専門相談（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

ひきこもり相談において適切なアセスメントを実施し、特に精神保健の観点からの支援を行っています。また、多職種連携チームによる支援も開始しました。

※取組実績は「家族への専門相談」と同様。

（令和5年度 of 取組）

今後とも、当事者の価値観や希望を尊重した専門相談を行います。

#### ○ 高校生対象の教育支援センターの設置（教育委員会事務局生徒指導課）

（令和4年度の進捗状況）

三重県教育支援センターの設置に向けた実証研究を7月から開始し、高校段階で社会との関わりが希薄な状態にある子どもたちに学習や自立支援、進路相談、体験活動等の機会の提供を行い、自己肯定感を高めることで子どもたちが自らの進路を主体的に考えることができるように支援しています。子どもたちの実情に応じた体験活動を行っているが、意欲はあっても参加しにくい状況の生徒もいるため、生徒の興味・関心やニーズを把握し、柔軟に対応していく必要があります。

- ・ 計画：7回、実績：6回（令和5年1月20日現在）

（令和5年度 of 取組）

三重県教育支援センターを設置し、高校段階の不登校生徒、高校中途退学者を対象に体験活動や生徒間交流、学習支援、カウンセリング等を実施することで、学校とのかかわりが希薄な状態となり、社会とも十分な関わりが持てず、関係機関ともつながっていない方に対して、社会的自立につなげるための支援を行います。

### (2) アウトリーチ（訪問型）支援の充実

#### ○ 多職種連携チームによる支援（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、医療・保健・心理等の多職種で構成される「三重県ひきこもり多職種連携チーム」を5月に設置し、特に高い専門性が求められるひきこもり当事者等への支援を実施しています。また、支援対象者の選定や支援内容の検討等を行うため、ケース会議を月1回開催しています。令和5年2月10日、「医療と福祉の連携研修」において、関係機関に対して実践報告を行いました。

- ・ 多職種連携チームによる支援件数：17件（令和5年1月末現在）



(令和5年度の取組)

今後とも、「三重県ひきこもり多職種連携チーム」による支援を行います。

## ○ 精神科病院におけるアウトリーチ支援（医療保健部健康推進課）

(令和4年度の進捗状況)

3つの精神保健福祉圏域（鈴鹿・亀山、津、伊賀）において、精神科病院にアウトリーチチームを設置し、精神科医療を必要とするひきこもり当事者も含む在宅の精神障がい者を対象に、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供するアウトリーチ支援を実施しています。

・ 支援件数：月30件程度（実件数）

(令和5年度の取組)

今後とも、精神科病院におけるアウトリーチチームによる支援に取り組みます。

## ○ 三重県生活相談支援センターにおけるアウトリーチ支援（子ども・福祉部地域福祉課）

(令和4年度の進捗状況)

三重県生活相談支援センターにおいて、アウトリーチ支援員を6月に1名増員（2名配置）し、当事者やその家族を対象に、伴走型支援によるアウトリーチを主体とした支援を行っています。また、地域福祉課とアウトリーチ支援員との意見交換の場を設け、日頃の活動状況の情報共有を行いました。

・ 支援件数：198件（面談訪問182件、同行支援16件）（令和5年1月末現在）

(令和5年度の取組)

今後とも、アウトリーチ支援員による丁寧な伴走型支援に取り組みます。

## ○ 教育支援センターを核とした不登校支援（教育委員会事務局生徒指導課）

(令和4年度の進捗状況)

不登校支援アドバイザー（5名）や7つの教育支援センター（6地域）に重点配置したSCとSSWが、不登校児童生徒の状況に応じて複数の教育支援センターを訪問し、不登校児童生徒への支援についてアドバイスを行うなど、訪問型支援を実施しています。

・ 支援者の人数及び実施回数：51人/147回（令和3年度実績）

(令和5年度の取組)

今後とも、不登校支援アドバイザーが各教育支援センターの指導員に助言するとともに、9つの教育支援センター（8地域）に重点配置したSCとSSWが、通室する児童生徒への支援を行うとともに、必要に応じて通室を希望しない児童生徒に対しても訪問型支援を実施します。

【取組方向4】 モニタリング指標	現状値 (R3)	実績 (見込) (R4)
三重県ひきこもり地域支援センターにおける多職種連携チームによる支援件数	—	17 件
アウトリーチ支援員による面談・訪問・同行支援件数 (延べ) (三重県生活相談支援センター)	169 件	198 件 (1 月末現在)
不登校支援アドバイザー等による訪問型支援を実施した人数および実施回数	22 人 134 回 (2 年度)	51 人 147 回 (3 年度)

## 【取組方向5】 社会参加・活躍支援

### (1) 社会との接点をもつ機会の提供

#### ○ ひきこもり当事者の居場所づくり支援 (子ども・福祉部地域福祉課)

(令和4年度の進捗状況)

##### ① 電子居場所の開設

当事者が社会とつながるきっかけとなるよう、市町社協等と連携し、既存のオンライン会議アプリを利用した電子居場所について、11 月末から順次開設しました。

・次の5団体へ委託し、月1回程度開催。

「オンライン瑠璃庵 (るりあん)」【社会福祉法人 いなべ市社会福祉協議会】

「つむぐば online-network」(略称: つむ net) 【特定非営利活動法人よすが】

「Life-art-online」【KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 みえオレンジの会】

「Perche de FACE」【一般社団法人 家庭教育研究センターFACE】

「さんぽみち Eルーム」【社会福祉法人 鳥羽市社会福祉協議会】

・延べ参加者数: 61 名 (令和5年1月末現在)

##### ② 広域的な居場所づくりの検討

当事者が広域的に利用できる居場所づくりに向けた検討を行うため、3つの圏域(北勢、松阪多気・南勢志摩、東紀州)ごとに、市町、社会福祉協議会、民間支援団体等で構成する「ひきこもり当事者の居場所づくり検討会議」(以下「圏域別検討会議」という。)を開催しています。

##### ◇第1回

・北勢圏域: 6月1日(参加者29名)・松阪多気・南勢志摩圏域: 5月23日(27名)

・東紀州圏域: 5月31日(17名)

・(前半) 事例紹介: (テーマ)「伊賀市における居場所づくりの取組について」

(講師) 伊賀市社会福祉協議会 寺田浩和氏

(後半) 参加者間の情報交換会

##### ◇第2回

・北勢圏域: 10月21日(参加者22名)・松阪多気・南勢志摩圏域: 10月5日(16名)

・東紀州圏域: 10月6日(8名)

- ・(前半) 事例紹介：(テーマ)「県内における居場所づくりの取組」  
(講師) 鳥羽市社会福祉協議会 中村元氏  
松阪市社会福祉協議会 秋田美歩氏  
合同会社たまきあい 西村実希子氏

(後半) 参加者間の情報交換会

◇第3回(予定)

- ・北勢圏域：令和5年3月7日 ・松阪多気・南勢志摩圏域：3月8日
- ・東紀州圏域：3月10日

(令和5年度の取組)

今後とも、当事者が社会とつながるきっかけとなるよう、電子居場所を開設します。また、居場所づくりに意欲・関心のある市町、民間団体等からの要望に応じて、「ひきこもり当事者の居場所づくり応援アドバイザー」を派遣します。

## ○ 子どもの居場所づくり支援(子ども・福祉部子育て支援課)

(令和4年度の進捗状況)

子どもの居場所づくりが持続可能な取組となるように、子どもの居場所が運営上抱えている課題の解決を支援しています。

子どもの居場所づくり応援アドバイザーの派遣やインターンシップ研修について、10月から開始するとともに、子どもの居場所向け補助金により、子ども食堂等の活動支援、学習支援、子ども向け体験機会の提供活動支援を行っています。

子どもの居場所を支える地域力強化のため、子どもの居場所運営者のニーズと地域資源(企業、団体等)とのつながりの強化に取り組んでいます。

① 子どもの居場所の継続的な運営のための支援事業

- ・子どもの居場所アドバイザーの派遣(5件)
- ・インターンシップ研修を実施(4名)

② 子どもの居場所向け補助金

- ・三重県子ども食堂等支援事業補助金 16件
- ・三重県学習支援・体験活動等支援事業補助金 12件

③ 子どもの居場所ニーズ・シーズマッチング事業

- ・ニーズ登録18件、シーズ登録8件、マッチング成立2件

(令和5年度の取組)

「子どもの居場所」の安定的な運営に向けて、アドバイザー派遣や勉強会の開催、財政的支援等に加え、「子どもの居場所」と地域におけるさまざまな協力者とのマッチングを行います。また、協力者の新規開拓に向けて、既存の「子どもの居場所」などと連携し、子ども食堂を開催する飲食店を掘り起こすモデル事業を新たに実施します。

## ○ 学校外での多様な学びの場の支援（教育委員会事務局生徒指導課）

（令和4年度の進捗状況）

不登校児童生徒の自己肯定感を高めるために、県教育委員会で把握している不登校児童生徒を支援する民間施設（フリースクール等）が実施する体験活動を支援しています。

・支援件数：62回（令和5年1月20日現在）

（令和5年度の取組）

今後とも、フリースクール等民間施設が実施する体験活動への支援に取り組みます。

## ○ オンラインを活用した不登校児童生徒の居場所づくり支援

（教育委員会事務局生徒指導課）

（令和4年度の進捗状況）

不登校の中高生等を対象に、生徒自らが他者や社会と繋がろうとするきっかけを得ることができるよう、適切な管理のもとで安全・安心に他者と交流できるオンラインを活用した居場所を7月に開設しました。大学生が進行役となり、中高生等の興味・関心のあるテーマについて、参加者と大学生と一緒にチャットや音声での対話や、ゲーム等を行っています。また、様々な施設等とオンラインでつないだ社会見学や、メタバースを活用した居場所づくりを実施しています。

・参加者：延べ298名（12月末現在）

（令和5年度の取組）

今後とも、中高生が関心を持ちやすいテーマを設定し、オンライン（仮想空間も含む）を活用した多様な活動により、同世代との交流の場づくりを進めていきます。

## （2）段階的・継続的に社会参加・活躍できる環境づくり

### ○ 当事者の体験プログラムの仕組みづくり（子ども・福祉部地域福祉課）

（令和5年度の取組）

ひきこもり当事者が社会とつながり自信を取り戻すためのきっかけとなるよう、社会貢献活動に積極的な県内のサッカークラブチーム等と連携・協力し、当事者の体験プログラムを構築し、関係機関を通じて、当事者とクラブチームをマッチングする仕組みづくりを行います。

### ○ 就労準備支援事業の活用促進（子ども・福祉部地域福祉課）

（令和4年度の進捗状況）

生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業について、三重県生活相談支援センターと県福祉事務所が連携し、事業所の開拓等を進めるとともに、市町に対して積極的な事業の活用等を働きかけています。

・受入協力事業所：11事業所（令和5年1月末現在）

(令和5年度の取組)

今後とも、三重県生活相談支援センターと県福祉事務所が連携し、就労準備支援事業の活用を促進します。

## ○ 障がい福祉サービス等の利用による支援の促進（子ども・福祉部障がい福祉課）

(令和4年度の進捗状況)

市町職員や市町の委託等により運営する相談支援事業所等職員に対し、各種研修の機会を通じて、ひきこもり当事者を含む発達障がいや精神障がいのある方個々の事情に応じた障害福祉サービス等の利用など、支援につながるような助言等を行っています。

(令和5年度の取組)

今後とも、相談支援事業所等職員に対して、障がい福祉サービス等の利用による支援を促進します。

## ○ 農福連携による農業への就労促進（農林水産部担い手支援課）

(令和4年度の進捗状況)

ひきこもり当事者など生きづらさや働きづらさを感じている若者等の社会的自立に向けて、農業への就業促進に取り組んでいます。具体的には、受入れ先となる農業者を対象として、ひきこもりの概要や基本的な対応方法などに関する研修会を開催し、農業の多様な作業内容を活かしたインターンシップを実施しています。

こうした取組を通じて、農業者の募集や支援機関との情報共有の方法、若者等や家族の方の情報発信やアプローチ方法について調査・検討しています。

・委託先：NPO法人えん（インターンシップ参加者：8名）

(令和5年度の取組)

これまでの農業の就労体験を実施する中で蓄積した農業者の募集や支援機関との情報共有の方法、若者等や家族の方への情報発信やアプローチ方法等のノウハウを、関係機関に情報発信し、若者等の就労促進の加速化を図ります。

また、就労支援機関と連携し、ひきこもりなどの若者等を対象とした農業でのインターンシップに取り組み、受入先の農業者を募集・リスト化します。

## ○ 多様で柔軟な働き方の推進（雇用経済部雇用対策課）

(令和4年度の進捗状況)

就労を希望するひきこもり当事者や障害のある方が、希望や特性、体力等に応じて働き続けるため、今ある働き方に合わせるだけでなく、多様な選択肢の中から自らに適した働き方を選択できるよう、ICTを活用した在宅ワークや柔軟な勤務形態などの環境整備を促進しています。

特別支援学校、就労支援事業所、ひきこもり支援団体に参加を呼びかけ、ステップアップカフェ「だいたい食堂」において、分身ロボットOriHimeを活用したテレワーク就労体験（接客業）を9月に実施しました。（参加者：当事者1名）

（令和5年度の取組）

働く意欲のあるひきこもり当事者や障害のある方が自らの能力や適性を生かし、希望に応じて働くことのできるよう、短時間雇用（週10時間以上20時間未満雇用）や、複数の企業と就労支援事業所が連携する施設外就労など、ニーズに応じた多様で柔軟な働き方について県内企業への普及を促進します。

## ○ 就職氷河期世代を対象にした就労支援（雇用経済部雇用対策課）

（令和4年度の進捗状況）

県内のさまざまな関係機関で構成される「みえ就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」において、就職氷河期世代の活躍支援策の進捗管理等を統括し、継続的な取組を推進しています。（8月24日開催）

おしごと広場みえには、就職氷河期世代専門相談窓口「マイチャレ三重」を設置し、ひきこもり経験者を含む就職氷河期世代の方を対象に、各種相談やキャリアカウンセリング、就労体験等の受入先となる県内事業所の開拓等を行うとともに、雇用・福祉・医療等の支援機関と連携し、就職や社会参加に向けて切れ目ない支援を行っています。

- ・マイチャレ三重相談件数：222件（12月末現在）
- ・開拓事業所数：13事業所（12月末現在）
- ・就職者数：4名（12月末現在）
- ・合同企業説明会の開催：（津）令和4年8月5、6日（参加者延べ21名）  
（伊勢）11月12日（参加者6名）、（四日市）12月2、3日（参加者延べ18名）
- ・事業所向けセミナー：10月20日（参加者30名）

（令和5年度の取組）

今後とも、ひきこもり当事者を含む就職氷河期世代の方を対象に、「みえ就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」において継続的な取組を推進するとともに、「マイチャレ三重」において、切れ目のない支援を行います。

## ○ 地域若者サポートステーション等と連携した就労支援（雇用経済部雇用対策課）

（令和4年度の進捗状況）

### ① 「地域若者サポートステーション」の取組

ひきこもり経験者を含む若年無業者の職業的自立を図るため、各地域若者サポートステーション（4か所）と連携し、就労体験や各種セミナーの開催等に取り組んでいます。

#### ア）就労前スキルアップ訓練

就労など自立に課題を抱える若年無業者に対して、地域の企業等で就業するた

めに必要な知識や技術を取得させるために、パソコン講座や就労に向けたスキルアップのための訓練等を行っています。

・参加者延人数：201名（11月末現在）

イ) 就労体験等

NPO法人や事業所におけるジョブトレーニングを体験できる機会を提供する他、社会参加への一環として、イベント等への社会体験（ボランティア体験）を実施しています。

・参加者延人数：245名（11月末現在）

ウ) 常設型施設体験就労

運営団体自らが運営管理する施設を利用して、基本的な社会生活やスキルを身につける就労体験（喫茶、製菓及び農業）を実施しています。

・参加者延人数：269名（11月末現在）

エ) 就職氷河期世代向け就労支援事業

就職氷河期世代向けに、職業スキル向上を図るとともに、就労に向けて成功体験を重ねていくための就労体験や社会体験等を実施しています。

・参加者延人数：139名（11月末現在）

② 「おしごと広場みえ」の取組

「おしごと広場みえ」を拠点に、若年者向けの雇用情報の提供、職業相談、キャリアカウンセリング、セミナー、企業情報収集等、総合的な就職支援サービスを提供しています。（若者と企業との交流イベントの開催、県内外の大学訪問による県内の就職情報の発信及び情報収集、企業向け人材確保セミナー等）

（令和5年度の取組）

今後とも、ひきこもり当事者を含む若年無業者の職業的自立を図るため、各地域若者サポートステーション（4か所）と連携し、就労体験や各種セミナーの開催等に取り組みます。また、若年求職者、大学生等の安定した就労や職場定着を図るため、三重労働局等と連携し、「おしごと広場みえ」を拠点としてオンラインを含めた職業相談や各種セミナーの開催に取り組みむとともに、県内企業の人材確保ニーズと若者の就労ニーズとのマッチングを図るなどワンストップで総合的な就労支援を実施します。

○ 夜間学級体験教室「まなみえ」における支援（教育委員会事務局小中学校教育課）

（令和4年度の進捗状況）

不登校等のため小・中学校に十分通えなかった方に対し、夜間学級体験教室「まなみえ」において、学習面に関する支援を行っています。

◇1学期

- ・期間・場所：4月25日～7月7日（津会場と四日市会場の2か所）
- ・実施回数：全30回
- ・8名（うち不登校経験者5名）の受講生が継続的に参加。

#### ◇ 2 学期

- ・ 期間・場所：9月6日～10月24日（津会場と四日市会場の2か所）
- ・ 実施回数：全20回
- ・ 10名（うち不登校経験者4名）の受講生が継続的に参加。

※1・2学期を通じて12名の受講生（うち不登校経験者5名）参加（重複を除く）

（令和5年度の取組）

夜間中学の令和7年度開校に向けて、先行事例の調査研究を行い、多様なニーズに対応できる学習内容や学び方について検討を進めるとともに、生徒募集のために必要な広報活動に取り組みます。また、令和6年度予定の施設設備の整備に向けた設計業務を実施します。さらに、夜間学級体験教室「まなみえ」は、夜間中学の開校を見据え、受講生の習熟度に応じた授業を実施します。

【取組方向5】 モニタリング指標	現状値 (R3)	実績 (見込) (R4)
ひきこもり当事者のための居場所数	24カ所	39カ所
子どもの居場所数	78カ所 (3年12月現在)	135カ所
民間施設（フリースクール等）が行う体験活動への支援回数	17回	62回
地域若者サポートステーションにおける相談件数	6,518件 (2年度)	3,099件 (11月末)

#### 【取組方向6】 多様な担い手の育成・確保

##### (1) 相談員・支援員の育成・確保

##### ○ ひきこもり支援者向け研修会の開催（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、教育・保健・福祉・医療・雇用等のさまざまな分野でひきこもり支援に関わる方を対象にした「ひきこもり支援者スキルアップ研修」を2回開催し、「ひきこもり相談支援マニュアル（第2版）」を初任者対象に紹介しました。（再掲）

また、「かかわり方の基本的考え方とコミュニケーション技術～コンコーダンス・スキルの実践～」というテーマで、医療保健分野の従事者を主な対象とした心理介入技術を学ぶ研修会を令和5年2月3日に開催しました。

（講師）宝塚市立病院 専門看護師 武藤教志氏（津庁舎大会議室）

（令和5年度の取組）

今後とも、県内のひきこもり支援者の理解を深めるとともに、技術向上を図るため、精神保健医療の専門性を活かした研修会を開催します。



## ○ ひきこもり支援ネットワーク会議の開催（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

県内4地域（北勢、中勢伊賀、南勢志摩、東紀州）において、家族支援をテーマとした「ひきこもり支援ネットワーク会議」を開催し、家族支援について、各機関からの報告と意見交換を行いました。（再掲）

令和5年3月3日には、全体会にて本年度の三重県ひきこもり地域支援センターの事業報告を行う予定です。

（令和5年度の取組）

令和4年度と異なる視点に基づき、県内ひきこもり従事者に必要な内容を提供し、連携強化を図る「ひきこもり支援ネットワーク会議」を、県内各地で開催します。

## ○ 関係機関への技術支援（三重県ひきこもり地域支援センター）

（令和4年度の進捗状況）

関係機関への技術支援として、市町における研修会の講師依頼への対応等に取り組みました。（支援先：松阪市、多気町、いなべ市、玉城町、伊勢市、伊賀市、桑名市、三重大学、三重県人権センター、三重労働局）

（令和5年度の取組）

今後とも、関係機関への技術指導や助言を行います。

## ○ 「相談支援包括化推進員」の育成支援（子ども・福祉部地域福祉課）

（令和4年度の進捗状況）

市町における包括的な支援体制の整備に向けて必要な人材である「相談支援包括化推進員」を養成するため、市町、市町社会福祉協議会、地域包括支援センター職員等を対象に、「相談支援包括化推進員養成研修」を9月から開催しています。

- ・連続講座：9回、課題別研修：5回（参加者：218名）
- ・課題別研修（1回）、オンライン座談会（1回）を3月に開催する予定。

（令和5年度の取組）

今後とも、「相談支援包括化推進員養成研修」を開催します。

## （2）ひきこもりサポーターの養成・派遣

### ○ 「ひきこもりサポーター制度」の検討

（子ども・福祉部地域福祉課、医療保健部健康推進課、三重県ひきこもり地域支援センター）

(令和4年度の進捗状況)

ひきこもり経験者やその家族をはじめ、ひきこもり支援に興味・関心のある方が支援活動に参画していただけるよう、「ひきこもりサポーター制度」の創設に向けて、他県の先進事例の調査などを行いました。第3回の圏域別連携会議において、市町等職員と意見交換を行う予定です。

(令和5年度の取組)

今後とも、実効性のある制度を創設できるよう、検討を進めていきます。

### (3) 不登校児童生徒等を支援する人材の育成支援

#### ○ 教育支援センター指導員の育成研修

(教育委員会事務局研修企画・支援課、生徒指導課)

(令和4年度の進捗状況)

不登校児童生徒やその保護者への適切な支援を行うため、教育支援センターの指導員を対象に、事例検討等を中心とした実践的な資質向上を図る「教育支援センター育成研修」を6回実施しました。

- ・受講者の今後の活用度：平均74%
- ・5月11日「教育支援センター担当者の基礎」
- ・6月23日「ロールプレイング」
- ・7月21日「事例検討会①」
- ・8月29日「不登校の理解と支援」
- ・10月19日「グループでの事例検討」
- ・1月25日「事例検討会②」

(令和5年度の取組)

今後とも、不登校児童生徒やその保護者への適切な支援を行うため、教育支援センターの指導員を対象に、事例検討等を中心とした実践的な資質向上を図る研修を開催します。

【取組方向6】 モニタリング指標	現状値 (R3)	実績 (見込) (R4)
相談支援包括化推進員養成数	56人 (2年度)	集計中
ひきこもりサポーター制度の創設	—	他県調査・検討